

短歌

選評

永井正子

【佳作】

小松市立高等学校 一年 高橋 壘

見上げれば大きな空が広がって一歩踏み出し夏が始まる

短歌部門のジュニアの応募は三人だけであつた。とても寂しく、来年に希望を繋ぎたい。感覚や表現の新しさは見られず難のない作品である。せめて一人二首以上の応募がほしいと思う。作者の力がよく分かるからである。

【佳作】

小松市立高等学校 二年 朝本 涼風

風車カラカラ回る風の音夏のおとずれ教えてくれる

高橋 壘作品 を佳作とする。
さあ、始めるぞと見上げた空。その大きな空の下へ一歩を踏み出すと夏がいよいよ始まる。希望に満ちた何でもできそうな、そんな予感を抱かせる歌。

朝本 涼風作品 を佳作とする。

軽やかな音にカラカラ回る風車。開放した窓の風を受けているのだろうか。耳が知る夏の音だ。ゆったりした調べが良い。